

いわかげ 岩陰に暮らした 縄文人

権現谷岩陰遺跡ほか

高梁川の上流地域には、山口県の秋吉台に次ぐ石灰岩台地が広がっています。石灰岩は水に溶けやすいため、他の岩石と違って、変化に富んだ特異なカルスト地形を形成します。高梁市内にも、こうしてできた洞窟や岩

陰が多く分布しています。

このような場所をよく観察すると、縄文土器のかけらが落ちていることがあります。縄文時代の人々は、洞窟の入口付近や岩陰を生活の場として活用していたのです。ただし、洞窟の奥から水がわき出しているような場所は湿気が多くて過ごしにくく、岩陰の底が浅いところでは雨露をしのげません。さらに、生活に適した平坦な所があつて、南向きの方が明るく快適です。こうした地形の条件を見極めて、生活の場を選んでいたようです。

川上町高山市の権現谷岩陰遺跡は、そのような条件に見合った場所だったようです。発掘調査の結果、縄文時代前期から晩期に至る時期の土器や石器、骨角器などが出土しました。今からおよそ三〇〇〇年ないし六〇〇〇年前のもので、また、石灰岩の成分のおかげで骨の残りが非常によく、動物の骨が出土しています。この遺跡から出土した獣骨はシカとイノシシで、こうした動物を捕えて食糧にするともに、骨や角、牙は加工して道具を作ることもありました。また腐朽して残っていませんが、動物の皮も衣類や敷物などに使われたでしょう。



権現谷岩陰遺跡(市指定史跡)

川上町地頭原滝山岩陰遺跡では、戦後まもない頃、石灰岩



原滝山岩陰遺跡出土の縄文注口土器(市指定重要文化財)

の採掘中に縄文時代の注口土器が発見されています。注ぎ口と取手が付いた、土瓶のような形の土器で、高さ一一・八センチの小さなものです。ここにも縄文人が立ち寄っていたようです。

彼らの生活は、年間を通じて一カ所に定住していたのではなく、狩猟や木の実の採集など季節に応じて移動することも多かったと考えられています。そのような時、住まいに利用できそうな岩陰を見つけては渡り歩いていったのかもしれない。

(文・社会教育課文化係長 尾上元規)

編集と発行(毎月15日発行) 高梁市総務部企画課

〒716-8501 岡山県高梁市松原通2043 電話0866(21)0210 ホームページアドレス <http://www.city.takahashi.okayama.jp/>



この印刷の一部には水質保全に有効な水なし印刷方式を採用しています。



環境にやさしい大豆油インキを使用しています。

再生紙を使用しています。